

新山協ニュース

発行所 鈴木敏雄

発行所 新潟県山岳協会

〒940 長岡市学校町1-12-23 室賀輝男 TEL 0258-32-0428

高頭仁兵衛翁と

新潟県登山祭

越後一の宮弥彦神社の燈籠
神事に併せ毎年7月25日は、
協会事業として新潟県登山祭
を行うことと決めております。

し活動そのものの登山祭でも
あります。

地元弥彦山岳会初め中越、新
潟地区他の各山岳会員が例年
三〇〇人からの参加者で賑わ
う弥彦山松明登山も、昭和29
年より続き、大平の地 高頭
仁兵衛翁寿像前で行われる高
頭祭は、越後の生んだ山岳会
の大先達、高頭翁の遺徳を偲
ぶ大祭で、恒例の新潟県登山
祭も併せ行なわれて弥彦神社
の燈籠神事に花を添えており
ます。

その弥彦に於る登山祭の源
となったのは、今更申し上げ
るまでもなく日本に於る山岳
界の黎明期の大先駆者であり
山岳界の父とも言われた高頭
仁兵衛翁であります。

仁兵衛翁寿像前で行われる高
頭祭は、越後の生んだ山岳会
の大先達、高頭翁の遺徳を偲
ぶ大祭で、恒例の新潟県登山
祭も併せ行なわれて弥彦神社
の燈籠神事に花を添えており
ます。

先に6月15日、長岡市にお
いて開催の日本山岳会設立80
周年記念事業で、大滝山正林
寺に眠る高頭翁の墓参法要の
際、参会者より高頭翁の墓参
は初めてであり意義ある記念
事業の一環だと讃辞を頂いた
が、高頭翁は、明治10年5月
20日、三島郡深才村深沢（現
長岡市深沢町）に生れ、片貝
高等小学校時代に恩師大平辰
先生の教えの下に13歳のとき
弥彦山に登ってから登山に愛
着をもち、以来山岳登路の趣

味を解し、明治38年、日本山
岳会設立発起人となり、同39
年に翁の山岳積年研鑽の成果
を「日本山獄志」として刊行
し多くの岳人に山のバイブル
として愛読された。

その日本山獄志は、全国二
千九百九十四座に及ぶ主要山岳
の山勢、位置、ルート、標高
里程はもとより展望、溪流、
動植物、伝説に至るまで詳述
してあり、更に登山術、山岳
諸説、地質構造、山岳表など
の主要山岳地図なども記述し
た不朽の名著であり、昭和45
年に日本山岳会編として高頭
翁の横顔、思い出、業績など
を集めた「越後の旦那様」を
別冊として複製されている。

昭和21年12月、高頭翁を顧
問に日本山岳会越後支部を藤
島さんにより創立。同25年5
月に越後支部で、翁の古稀の
御齡に際し我等はこの思慕と
敬愛の溢れる余り、越後一の
宮弥彦山に、と翁の寿像を山
頂御神廟脇に建設し、翁の寿
像を掲げ、郷土の山の先蹤者
の温容に接見し、その不撓不
屈の登高心を偲ぶと共に、尽
くる事なき功績を永久に記念
するため寿像を掲げました。
しかし、昭和33年9月3日、
病魔には勝てずご逝去されま
した。

昭和34年、神社の都合によ
り弥彦山と多宝山の中間鞍部、
大平の地に寿像を移転するこ
ととし、昭和35年5月15日、
冠松次郎先生を迎え除幕式を
挙行し、その寿像は、苗場山
頂の大平辰翁レリーフを南望
する様に建っている。

当山岳協会では、前記のと
おり昭和29年以来、新潟県登
山祭と称し、この弥彦大平の
地に翁の霊を供養しその遺徳
を慕い、寿像前に岳人約三〇
〇人が集り、大焚火を囲んで
合唱し、燈火をかざして延々
たる長蛇の列となり神社で灯
籠神事に引きつがれて盛大な
大祭が挙行されている。

(鈴木 敏雄)

佐渡、方島に夕陽が沈むと、
燃え上る松明を多数の岳人が
捧げて、御拝廟から下る火龍
のうねりと、神山弥彦ぞ越後
の象徴、二百万人仰ぎて崇し
と讃歌の歌声は、自然に調和
着をもち、以来山岳登路の趣

日本山岳会創立80周年

記念晩餐会を終えて(報告)

鈴木 敏 雄

今年度の評議員会でこれの

いる。

協議方について承認を得た日本山岳会創立80周年記念晩餐会も、新緑の6月15日、16日と二日間にわたり、長岡市、北越銀行ホールをメイン会場にして盛大に開催された。なお、この開催について長岡、中越地区の各会員から多数ご協力いただいたことについて、本紙上で厚く御礼申し上げますとともに、ここにこの事業の概況を報告します。

梅雨期の越後路もこの日ばかりは全国各地からの会員を笑顔で迎えるものと新緑も一段と彩て珍らしい快晴。

会場には定刻前から会員が次々と駆付け、挨拶もそこそこ支部会員の作品展示会場へと吸い込まれ、広いロビーも人で埋まり一五〇余点の作品も肩越しに眺める程で、会場は唯々感嘆の会話で満ちて

開会が迫る頃には、三二〇名の参加者で広いホールも満席となり急拠補助椅子を出すやら若手会員は大童。定刻13時、加藤記代子さんの司会で創立80周年記念事業(越後)の開会を宣言。佐藤支部長は、意義ある80周年記念晩餐会を当支部で開催できたことは真に欣快の至りで、全国各地から会員多数の参加をいただき、この二日間共に交流を深めていただき、この会が今後皆さんの潤い豊かな山行のお役に立つ事ができるなら幸いです、と開会の挨拶に始まり、今西会長より、本会の創設者、高頭翁の偉大な功績と、越後支部の興隆を祈りこの記念事業が盛大かつ有意義な会となるよう祈念してやまない、と挨拶を頂戴、祝電披露に続き、西堀栄三郎

先生より「昔の登山、未来の登山」と題して記念講演を戴く。

敬礼をしたことから念願かなってマナスルの門戸は開かれた事などエピソードを交え、これも何かの因縁と出合によるものだと感慨深く話され、それでは未来の登山はどうなるであろうかと考えるに、単にアクロバティックの山登りだけではなく、又山は高さものみが良いのではなく、もっとバラエティーに富んだ山登りを考え進めるべきであり、もう一度八〇年前に山登りを戻し、あらゆる角度から山そのものを考え直すことが今後の登山に最も相応しいこととなるであろうと結び、降壇。

演壇の西堀先生は、創立80周年とは云うが、私の生れた頃と一緒で、その頃の登山は今の登山に比べ格段の差があり大変だったと思う、大先輩の高頭さん、小暮さんなどが日本における登山の先駆者であり登山の黎明期を創ったと云っても過言ではないと思う。同じ頃、松方さん、横さんが欧州から新しい山の技術と道具を導入した頃で、一本杖の平地滑走のスキーから山登りのスキーへと移った頃で、モダンアルピニズムの始まりではあったが、街では所詮登山は金持の道楽とも言われた時代であった、と懐古に耽る昔の山登りとスキーについてうかがい、更に戦後、国内の山もさることながらヒマラヤについて真剣に考えるようになり、ネパールに潜入しマナスルの許可をとるためネパール政府の館で、明治天皇の御真影が飾ってありその前で最

境稜線の山岳地質的特質をスライドにより説明を受け、新潟県の地質は、最近中世層と石灰岩から成る特質であると一時間にわたり講演をいただき、第一会場の行事を終了。バスを連ねて越後の田園地帯を通り、大湫山、正林寺に向う。正林寺は高頭仁兵衛翁の眠る菩提寺で、ひっそりと静まり返った山門を登り、鐘楼左手に高野槇の大樹がありその基に高頭翁の墓がある。幕前に日本山岳会と越後支部の生花を献花し果物を供え、奥津五郎氏の案内で参拝者一同合掌、読経の続く中を西堀先生、今西会長、高頭寿久氏、佐藤支部長と焼香、先達の偉業とその先駆を偲び、想も新たに山門を後にし、長岡美酒「美の川」酒蔵の門を訪ねる。片岡博氏の案内で七代目松本社社長さんから古びた酒蔵ですがゆるりと見学し、当社自慢の品を御賞味頂ければ幸いです。と挨拶、見学もそこそこ中庭に廻り瓶の口を開ける。心尽しの山菜も山と盛られ、あれやこれやと試飲が

祝電披露に続き、西堀栄三郎

ついつい……? 帰りに菰被りと各自記念の栴を頂戴し、次の会場に向う。

東京閣前で全員の記念撮影一五〇名からの撮影はこれ又大変。先程の試飲も手伝わってか笑の洪水。

東京閣館内放送が日本山岳会記念晩餐会の開会を告げる。二〇四名の会員で会場は寿司詰の有様。山田智子さんの司会で佐藤支部長は、肩の凝らない山菜と地酒の晩餐会といたしますがよろしく、と挨拶。

佐々前会長より、越後支部は全国で二番目に大きい支部であるが、御体、藤島玄さんの顔の見えないのが非常に残念である、明日は全員元気に八海山に登って欲しい。と挨拶を頂戴し、望月達夫氏より越後には知人も多く、今回特に高頭翁の墓参法要にご案内いただき、これの企画に感謝し、古い会員にも久々にお逢い出来て嬉しい、と祝辞を頂戴。大塚副会長より、越後支部おめでとう、ただ一言「君あの山きれいだね」と讃辞を

頂戴。

次いで越後支部創立40年に因み支部在籍30年の22名を代表し、五十嵐篤雄氏に賞状、

記念品が支部長より贈られ一同拍手のうちに晩餐会の開宴となる。

「美の川」の菰被りを西堀先生、今西会長、佐藤支部長の三氏により鏡開き、会場より勢い良く気合もかかり、乾杯の音頭は長老浜野正男氏から玄さんの病気全快を祈り乾杯と発声、酒宴に移る。

片岡博氏より奥只見で昨日採った山菜を種別に紹介、マタタビの蔓、フキ、アザミ、アサツキ、ウド等々、盛り沢山の山菜料理が次々に所狭しと運ばれ、美の川、大洋盛、ふじの井、の一升瓶がその間を縫って置かれ、それ飲めや喰いやの大酒宴となる。

肉と猪の肉の紹介、さすが越後と唱采、腕に盛られて配られる。

酒宴は果てなく続くが、部屋に持ち込む者、車座で飲み語り合う者等々、次から次へと瓶が運ばれ、越後の夜は更けない。

明けて16日、昨夜の酒量はどこへやら、全員宿酔もなくバスを連ねて八海山城内口へと向う。車窓から望む越後三山の雄姿がいや応なしに飛び込んでくる。天気は快晴、絶好の記念山行日和。

八海山ゴンドラ駅から山頂駅まで一直線、雄大な眺望を

楽しみ展望台から越後三山を欲しいままにし、一七五名はそれぞれ八海山頂を目指す。

ヒメリンドウの淡い紫色、雪溪近くのシラネアオイ、カタクリの群落と真夏を思わせる日差しの中を千本松小屋着。

八ツ峯に向う者、昨晚の続きを祝う者とそれぞれ千差万別。13時、山頂を後にし、山麓駅前で二日間にわたった80周年記念事業も大詰。会員それぞれ又の再会を約して、斉藤平七氏より閉会の挨拶。

最後に望月達夫氏より越後支部の万才三唱でその幕を閉じた。

米山での冬山技術研修会

榎 木 幸 子

尾根と日本海の景観を楽しみながら歩く余裕も出てきました。また、尾根の歩行は、日本海からの風が吹きつけることによって堅くクラストした西斜面、風下であるということによって雪庇ができた東斜面と、これまで知識として持っていたものをこの目で確かめさせてくれました。

実地研修の会場では雪洞掘りを最初にやりました。幸い雪は柔かく、気持ちよく仕事ができます。入り口は小さく、テラスを低く掘って……等々、座学で学んだことを頭において掘り始めました。

そのつもりでした。しかし、だんだんと掘ることに夢中になっていき、雪洞内の底を低く掘ってしまっていました。その結果、天井は高く、入り口は広がり、また、テラスの方が高いという雪洞ができ、あわてて入り口をブロックで小さくしたり、テラスを掘ったりしました。そして、もう

一つ決定的なミス、それは、互いに両側に掘りすすみ、結

局、まん中に入り口ができたことです。まさにかまくらです。「明るくて昼間はいいね。」いくことが必要でしょう。

「夜はきつと寒くて眠れないよ。」そんな皆さんの言葉に思わず赤面。座学でしっかり分かったつもりだったのにこのギャップ——でも、他グループの雪洞を見学して、私は、本当に納得しました。この次は、きつと上手に、あたたかく快適な雪洞をつくり

して身につけるには、これから繰り返し繰り返し訓練してスキー場の山頂での経験しからありませんが、キラキラ輝く雪の峰々を自分の足で踏む素晴らしい資格でしょう。今の研修会を機に、一つ一つの知識や基礎技術を身につけて、ぜひ、その素晴らしいことに触れてみたいと思います。二日間、本当にありがとうございました。

第6回北信越大会を終えて

成年女子監督 山田 智子

さて、そのかまくら風の雪洞の中で、あたたかいラーメンでおなかを満たし、いよいよザイルワークです。命綱ともいえるザイルを扱うことは緊張そのものです。訓練用斜面もどこまでも滑り落ちそうな斜面で、最初は、正直なところ、足がすくみました。しかし、一つ一ついいいな御指導があり、やっているうちに緊張も解けて、真剣な中にも楽しく練習することができました。しかし、手取り足取りの指導を受けながらの訓練、本当に自分たちを守る技術と

大会が20日後に迫った7月7日、二転三転どころか、六転も七転もして、ようやく成年女子チーム、三選手の顔が揃った。遅ればせながら、昨年の選手経験を生かして、後藤リーダーを中心に強化訓練に入ることができた。しかし、結果は総合三位で、鳥取大会のチャレンジは実現しなかったが、短期間にいろんなことを修得して頑張った。特に登攀は、大会で始めて三人が

ザイルを組んでの健闘であった。もう少し時間があつたらと悔やんだのは私ばかりではなかったと思う。年々、成年女子の予選会参加チームが減ってきて、今年はゼロであった。そのためこの会に活動している女子会員がいるのかわからず、聞きつけては連絡をとって打診：断われ：もくり返した。そして誕生したのが、後藤さん、馬場さん、中村さんの新潟県チームであった。三人には時間の無いことから、精神的には大きな負担をかけたと思うが、「一生懸命、国体」ととりくみ、積極的に行動していた。閉会式で、表彰を受けた三人の表情は、鳥取には行かれなかったが、いい顔、いいムードをしていた。短期間であったが、思いきり頑張った満足感みたいなものを感じていたのでないかと思う。このたびの経験は、山行きを続けて行くかぎり、楽しい山行にも、苦しい山行にも、また成長にもつながるパイプの役目をしてくれると信じている。選手依頼の会話の中で、山登りの団体ってどんなことをするんですか、いい時期に好きな山へ行かれない、金がかかると、岩登りの経験がないから——など、いろんなことが話題になった。点数制になって6年目を迎え、協会の態度も大きく変わり、事情も毎年改善されてきているが、参加にせよ不参加にせよ、その意見には一理がうかがえ、国体が若い人達に敬遠されていることは確かのようなのである。ささやかながらお手伝いをさせて戴いて感じたことは、すぐに選手として通用する経験を持ち合わせた人が対象になるのではなく、これから山登りを志すという人には、もってこいの勉強の場になるのではないかということである。一年を棒にふるから——とよく聞かすが、長い登山生活の一年であり、技術の向上、知識の修得に、協会はそれなりの態勢を整えているので、一年分以上のものが確実に

第6回北信越国体 第40回鳥取国体 名簿

種別	監督 選手	氏名	所属団体	住所
成年男子	監督	吉野良介	デラシネ山の会	新潟市本所2204
	選手	笠原孝幸	山岳同好会新潟望遠	西蒲原郡黒崎町鳥原2507-2
	"	阿部幸治	秀峰山岳会	" 岩室村夏井724-1
成年女子	監督	山田智子	越稜山岳会	中蒲原郡亀田町旭1-1-13
	選手	後藤邦子	悠峰山の会	新潟市河渡庚272-2
	"	馬場祐子	山岳同好会新潟望遠	" 下所島2-10-14
少年男子	監督	中村孝一	三条高校	見附市昭和町1-8-11
	選手	小菅和弘	"	燕市太田5554
	"	斎藤吉浩	"	三条市北入蔵104-23
少年女子	監督	帯刀勤	新発田高校	新発田市住吉町5-1-22
	選手	竹内美早	"	" 大手町3-3-20
	"	会田苗理	"	北蒲原郡紫雲寺町稲村岡2081-2
	"	長谷川真	"	" " 米子136

に身につく苦である。事実、大会後の選手がそれを示してくれている。いい意味での利用をすればよいのではないかと

と思う。大会は1チーム3名で参加するが、予選会には1名でのフリー参加も認められている

し、国体山岳競技の体験のため、またチームを組んで参加する同性選手を応援する親睦の意味からも、気軽に参加されることを薦めたい。

私自身が未熟なので、お手伝いをさせてもらいながら、いろんなことを教えてもらったうえに、若い人達と交流すること、情報を得たり、所属山岳会を外から観察、見直してみること、考えさせられることがいっぱいであった。

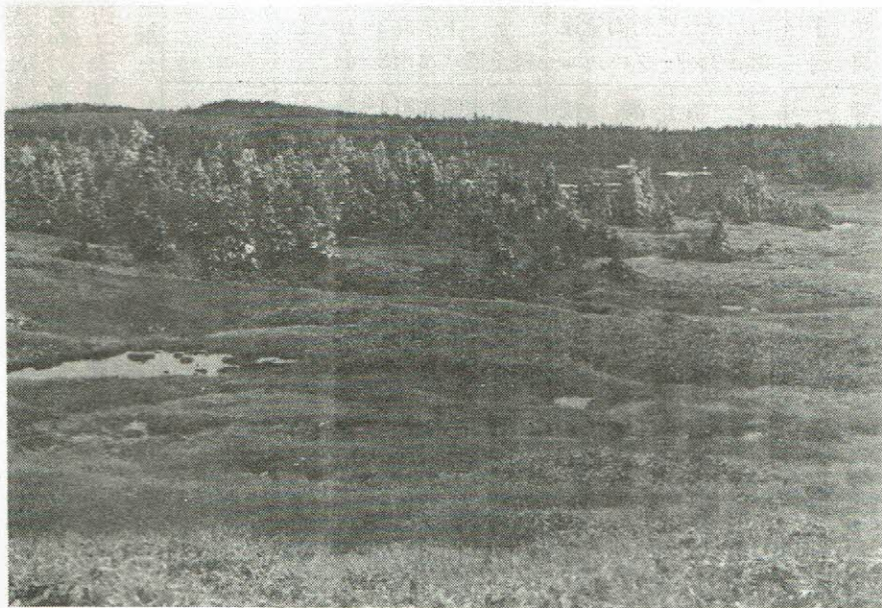
- 最後に、強化訓練に絶大なる協力をして下さった高橋秀樹さんの都合により、急拠監督を仰せつかったのですが、私には大任すぎて、選手の皆様をはじめ、多くの方々に助けて戴きました。改めて心より御礼申し上げます。
- 4月7日 評議員会
- 4月14日 国体県予選会会場下見(角田山) 10名
- 4月28/29日 第40回国体県予選会 角田山塊
- 4月22/23日 初心者岩登り講習会及び指導員検定会(岩登り技術) 新発田内ノ倉ダム 杉滝岩
- 5月18/19日 指導員検定会(氷雪技術) 银山平
- 5月25/26日 北信越国体打合せ 富山
- 5月26日 日山協総会
- 6月1/2日 全国遭難対策研究会 神戸
- 6月15/16日 日本山岳会創立80周年記念事業 長岡八海山
- 6月22/23日 50嵐遭対委員長出席
- 7月15日 国体選手強化会議 新潟
- 7月25日 新潟県登山祭 高頭祭 弥彦
- 7月26/28日 第6回北信越国体 富山極楽坂山
- 8月10日 理事会 新潟 井口宅
- 9月9日 日山協指導員会 総会 東京
- 田中副指導委員長出席

協会・行事・活動報告

行事案内

親睦登山

期日 10月12日(土)～13日(日)
 会場 苗場山 秋山郷より
 集合 長野県下水内郡小赤沢
 交通 バス大割野発13・05と
 17・40
 宿泊 幕営 神社前 各自で
 テントを用意する
 民宿 中津荘
 食事付 5500円
 ☎0257(67)2161
 申込時、民宿希望を明
 確に！
 小赤沢共同浴場有
 日程 13日7時出発 小赤沢
 神社～四合目水場～日
 蔭岩～苗場山
 装備 秋山装備 防寒具
 参加費 1000円
 申込 長岡市学校町1の12の
 23 室賀輝男方
 新潟県山岳協会
 ☎0258(32)0428



苗場山

※ 津南山岳会の協力で、紅葉と池塘の苗場山を、秘湯秋山郷から楽しく登ります。
 ※ 山頂より湯沢方面下山も可。

自然保護

研修会

期日 10月26日(土)～27日(日)
 会場 銚ヶ岳 1316.3m
 集合 西頸城郡能生町柵口
 宿泊 山水館
 ☎0255(68)2012
 日程 17時集合
 26日
 一、講義
 ○ 自然保護制度の概要
 ○ 自然公園利用指導のあり方
 二、体験発表と意見交換
 27日
 銚ヶ岳登山と自然観察
 実習
 装備 防寒具 雨具 電池
 非常食は必携
 参加費 6000円(宿泊・27日の中食費共)
 申込 10月15日迄
 糸魚川市大和川
 石田国夫
 ☎0255(52)3290
 又は協会事務局
 ※ 銚ヶ岳は石楠花で有名な

山であり、島道温泉口より登り4時間、降り2時間の山行を予定します。
 ※ 自然公園指導員は研修会になりますので全員参加して下さい。また各地の実情報告もお願いします。

※ 上越の植生を勉強しませんか。また荒れる山、汚れる山の保護、話し合ってみませんか。多数の参加を希望します。

あとがき

晴天続きの為、沢登りには恵まれる秋となるでしょうが、夏各地の尾根ルート水不足との話。
 情報収集と準備を怠りなく、楽しい紅葉シーズンを過ごしましょう。